

安桜ふれあい プラザが オープン



4月8日、交流と学びの場「安桜ふれあいプラザ」がオープンしました。この施設はふれあいセンターのほか、市内で3つめとなる児童センター「安桜こども館」と、住民票の交付など行政サービスを提供す

る「市民サービスセンター」を含む複合施設となっています。式典で尾藤市長は「生涯学習の拠点や子どもたちの健全育成の場として大いに利用していただきたい」とあいさつしました。

あんな事、こんな事



これからもお元気で

4月2日、尾藤市長が昨年9月から今年3月末までに100歳を迎えた6人のもとを訪れ、花束と祝い金を手渡しお祝いしました。100歳のお祝いを受けた古田うめさんの長寿の秘けつは、くよくよ考えないでのんびりと暮らすことだそうです。尾藤市長は「私も100歳まで生きられるようにがんばります」と古田さんに花束を渡しました。

ふるさと農道開通でより便利に

4月14日、ふるさと農道岐阜・関の開通式が広見地内で行われ、関係者や地域住民らが開通を祝いました。この道路は、流通の合理化や地域の交流を目的とした、岐阜市三輪から国道418号線までを結ぶ1,780メートルの農道で、今回開通したのは国道418号線交差点から南へ385メートルの新設区間です。広見区長の村井勇さんは「愛される道路として未永く利用していきたい」とあいさつしました。





大空を泳ぐこいのぼり

小屋名の百年橋近く津保川上空に、今年もこいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。地元で不要になったこいのぼりを集め、子どもたちや地元の方に楽しんでもらおうと始め、今年で7年目を数えました。川を渡るロープに色とりどりのこいのぼり40匹が、悠々と大空を泳ぎ、毎日のように見物に多くの方が訪れています。このこいのぼりは5月5日まで見ることができます。

武芸八幡宮の花馬まつり

武芸川町の武芸八幡宮において、4月13日、勇壮な祭りとして有名な「花馬まつり」が行われ、多くの観光客でにぎわいました。背中に和紙の花をつけた4頭の馬が、勢いよく境内に登場すると、観客はこの花飾りを奪おうと次々と馬に飛び掛りました。この花を持ち帰り軒先に上げると家内安全のご利益があるといわれ、参加者も観客も大いに興奮していました。



水無神社春の例大祭

4月13日、富之保岩山崎地内にある水無神社にて、春の例大祭が行われました。このお祭では、神社から粟野地区にある仮宮までの約1キロを、神様が大小二つの神輿に乗って遊びに出られる御旅渡行が行われ、こん棒を持った2人の鬼を先頭に、大太鼓を「ドン、ドン」と叩きながらゆっくり歩いて行く行列は、昔変わらぬ幽玄なたたずまいを見せてくれました。

八幡神社の先谷祭

上之保の八幡神社では、4月13日、恒例の「先谷祭」が行われました。祭礼では太鼓や笛の音に合わせて伊勢神楽などが奉納され、地元の子供たちによる巫女の舞いには周りから温かい拍手が送られました。この祭りでは棒振りと呼ばれる鬼に悪口を言って追われたり、神輿の下をくぐると災厄を逃れるなどの風習があり、参拝者は手をつないで神輿の下をくぐって厄払いをしました。



こぼれ話



百年公園のこいのぼりを、遊びに来ていた小金田保育園の園児たちと一緒に撮影していたときのことでした。およつの時間になり園児たちにジュースが配られたのですが、数が足りなくなったので園長先生が買いに走りました。その間に担任の先生が「ジュースのないお友達がいるけど、みんなどうする？」と園児たちに問いかけたところ、「(ジュースが来るまで)待てる！」と答えました。

何気ないやりとりのように見えますが、先生は「待ってなさい」や「待ってよね」と指示したのではなく、「どうする?」と問いかけただけです。園長先生に話を聞くと、「子どもに選択肢を与えると、自分で考えて答えを導き出します」とのこと。

甘えて自分のことばかり考えていそうな年頃だと思っていたのですが、集団生活の中で、仲間を思いやる心がちゃんと育っているんですね。自分で考え、この心優しい答えを導き出した園児たちに私は感心しました。